

2020年度 慶應義塾大学経済学部 世界史

I

問1

(1) 宗教改革によるプロテスタント勢力の進展を前に、カトリック教会は教義の明確化と内部革新を通じて勢力の立て直しを図った。対抗宗教改革の一環としてトリエント公会議が開催され、教皇の許可を受けたイエズス会が海外でも宣教・教育活動を繰り広げた。(117字)

(2) 徐光啓がマテオ＝リッチとともに「ユークリッド幾何学」を翻訳した『幾何原本』、アダム＝シャルの協力のもと完成した西洋暦法による『崇禎暦書』はともに西洋の科学・技術を取り入れて、中国の科学・技術の発展に寄与した。(105字)

問2

(1) 3 6 7 8 (2) 2 4 6

(3) イエズス会の宣教師は布教にあたって中国文化を重んじ、信者に孔子の崇拝や祖先の祭祀などの儀礼を認めた。(50字)

問3 明では一条鞭法が採用され、銀の需要が高まっていたが、海禁政策がとられていたために、明の商人は日本の銀を輸入することができなかった。そこで、ポルトガル商人が明の生糸・絹織物・鉄砲・火薬を日本にもたらし、日本の銀と交易する中継貿易をおこなうようになった。(125字)

II

問4 (1) 5 (2) 4

問5 (1) ア 1 イ 3 ウ 2
(2) ア 4 イ 2 ウ 1
(3) 3 1 4 2 (4) 1

問6 プランテーションの普及に伴い、その労働力としての奴隷の食糧と住居用の木材、製糖工場の建設・修理用の木材が必要となったことから、イギリス植民地からの食糧・木材の輸入が進んだ。(86字)

問7 大陸封鎖令により大陸からの穀物輸入が激減し、小麦価格が高騰したイギリスはアイルランドの小麦に頼った。これに対し、イギリスへ輸出ができなくなった大陸ヨーロッパでは小麦が供給過多になり、小麦価格が暴落した。(104字)

問8

(1) カブ

(2) 中世以来の耕地を春耕地・秋耕地・休耕地の3つにわけて、耕作を行う三圃制に代わり、大麦・クローバー・小麦・カブを4年周期で輪作するノーフォーク農法は、休耕地がなくなり生産量を増やすだけでなく、牧草栽培による家畜の飼育が可能になった。(115字)

Ⅲ

問9 (1) (a) 1 (b) 9 (c) 4 (d) 8 (ア) 4

(2) (a) 2 (b) 1 (c) 7 (d) 8

(3) 1・4

問10 (a) 4 (b) 1 (c) 3 (d) 2

問11 (a) 8 (b) 9 (c) 6 (d) 3

問12 (1) α バルト β アドリア (2) a 6 b 1 c 4

問13 ゴルバチョフはグラスノスチやペレストロイカを提唱し、新思考外交を推進した。アメリカのレーガンも軍縮による財政赤字の削減を期待し、ソ連との対話を重視した。その結果、米ソ首脳会談ではINFの全廃が合意されるなど、米ソの緊張緩和が進み、マルタ会談へと至った。(124字)

問14 4 2 3 1